

『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

平成20年度派遣報告書

—エチオピア・アジスアベバ大学、アムハラ語、派遣期間(：H20. 11. 1- H21. 3. 31)—

平成20年入学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
博士課程2回生
砂野 唯

自分自身の研究テーマについて

エチオピア南部のデラシェ特別郡に住む人々は、ポロタという伝統的な在来貯蔵庫によってモロコシ (sorghum bicolor) を保存してきた。この貯蔵庫は、不透水層の土地を壺型に掘って作られる。モロコシをこの中に入れた後、石で蓋をして密封することにより、最大 20 年間保存することができる。このような特殊な貯蔵庫の存在からも明らかなように、彼らにとってモロコシは昔から重要な食料であった。彼らの主食はモロコシとトウモロコシから作られた酒である。しかし、近年エチオピアではモロコシなどの在来作物に代わって、トウモロコシなどの外来作物を栽培する割合が高くなっている。農業省の役人への聞き取り調査からデラシェ特別郡でも同様の現象が起きていることが確認できた。外来作物の導入により、人々の食生活、農法、労働時間などの生業活動が変容していることを示している。以上の背景を踏まえ、本研究では、トウモロコシの拡大下にあるエチオピア農村社会における在来作物の貯蔵庫ポロタの機能と社会的・文化的役割を明らかにすることを目的としている。

研修言語の概要

アムハラ語は英語とともにエチオピアの公用語であり、アラビア語やヘブライ語と同じく「アフロ・アジア語族、セム系言語」に属する。エチオピア国内では総人口 7700 万人中、話者は 2100 万人にのぼる。

エチオピアには 80 以上の言語があるといわれており、地域によって全く異なる言語が話されているが、公用語学校教育は公用語のアムハラ語と英語を用いて行われている。

言語研修の内容について

私の研究は、農学的なアプローチと人類学的なアプローチから、トウモロコシの拡大下にあるエチオピア農村社会における在来作物の貯蔵庫ポロタの機能と社会的・文化的役割を明らかにすることを目的としている。そのため、研修の目標は、現地調査をおこなううえで必要なアムハラ語の語彙や文法などの基本的な言語能力を身につけ、インフォーマントとの意思疎通が円滑にできるようになることであった。短期間のアムハラ語研修プログラムをアジスアベバ大学は保有していなかったため、アジスアベバ大学人類学科の准教授であるマモ・ヘボ博士と今回、私の講師をしていただいたハラガウウォイン・カッバダ講師に特別に語学研修プログラムを組んでいただき、それに従って研修を行った。

平日に 1 日平均約 3~4 時間アムハラ語の個人授業を受けた。講義はアムハラ語と英語で行われた。

はじめの2カ月は、アムハラ語の基本的な文法構造の習得と基本単語、及びその発音の習得に努めた。

その後1か月は、現地で農業調査を行う上で必要になる単語表と質問表の作成、及び習得に重点を置いた学習を進めた。

その後2か月は、農業調査をおこなううえで必要な語彙と基本的な表現を習得することに焦点をおいて講義が進められた。また、実際に調査対象地域へ出向き、学習した語彙や表現方法をフィールドにおいて実践的に使用し、語学能力の向上をはかった。

研修期間中に印象に残った体験や経験

これは語学研修の一環として、私が調査対象地を訪れた時のことである。

私の調査対象地では、現地語として、普段はアムハラ語ではなく、デラシェ語が話されている。もちろん、調査地は非常に就学率が高いため、小さな子供を除くすべての村人がアムハラ語を話すことができる。

ところが、若者の話すアムハラ語は授業で習ったアムハラ語とはイントネーションや意味が微妙に違うものがあることに気がついた。なぜなら、彼らはアムハラ語が母語ではないので、私と同様に完璧なアムハラ語を話しているわけでは無い。彼らの言葉は日本でいうところの女子高生世代の言葉で、本にのっているような正しいアムハラ語ではない。このように、世代が変わるごとに世の中がじょじょに変わることを実感した。

目標の達成度や反省点について

独学では習得の難しいアムハラ語の文法構成と発音の学習を行ったことで、アムハラ語による会話が可能となった。

これにより、日常生活におけるフィールドの人々の会話を理解することや、インタビューのときに通訳を介さずインフォーマントと直接やりとりすることが可能となった。また、調査と関連性の高い農業に関わる単語や表現をマスターしたことにより、今後の調査がより効率的に行えると考えられる。

しかし、現段階では複雑な文法構造を含んだ会話の聞き取りや文章の作成は不可能である。

また、アムハラ語には日本語にはない発音があるが、これらの発音を正確に行うことは、未だに困難である。今後は、聞き取り、会話、文章作成能力をフィールドワーク調査と並行した実践的な学習によって向上させていきたい。



文法の学習を兼ねた調査質問表作成作業



録音機を使った発音の練習



モロコシから主食であるチャガを作る女性（調査地にて）